

## 「葦」第50号発刊に寄せて

奈良県立医科大学附属病院

看護部長 橋口 智子

看護部が発行している機関誌「葦」第50号を発刊する運びとなりました。この機関誌は年1回の発行ですので、創刊されて50年を迎えたということです。この記念する号において寄稿させていただく機会をいただいたことに感謝申し上げます。

創刊号からこの「葦」発刊に至った経緯を紐解いてみますと当時の総看護婦長であられた西岡晴子氏が看護部内に教育部の設置を提案され、1967年（昭和42年）に婦長主任会において検討し、1968年（昭和43年）4月に看護部教育委員会が発足したとあります。そして翌1969年（昭和44年）9月にその活動を総括する機関誌として「葦」を発刊されたそうです。

創刊号の「創刊に寄せて」という西岡晴子氏の寄稿文には、昭和28年から看護教育を継続してきたが、形を変えて教育部を創設したと記されています。「患者のニーズを把握し患者中心の看護を実践するため、又更にナース自身が豊かに開花するために適切な専門的教育を行い、資質の向上をはかる重要性」があるとして教育部の設置と機関誌発刊の理由を述べられています。この「ナース自身が豊かに開花する」という言葉は、看護部が掲げる「人間を愛する心とかけがえのない命を大切にします」という理念を実践するための5つの方針の中に引き継がれています。中でも「奈良県立医科大学附属病院の看護師としての自覚をもち、豊かな人間性の涵養と自己のキャリア開発に努めます」、「専門職として科学的根拠のもとに責任ある看護を実践します」という2つの方針を実践することは、看護専門職として豊かに開花することと感じます。このように奈良県立医科大学附属病院看護部は、70年以上の歴史の中で形や表現を変えながらも、看護職としての根幹となるものを変えずに脈々と受け継がれてきたことを改めて実感しました。改めて身を引き締めて当院の看護職の資質向上のための教育に力を注がねばと思うばかりです。同時にこの歴史の中に居させていただくことを誇りに思いますし、70有余年の看護部の歴史を支えてきてくださった方々に恥じない看護部をつくっていきたく強く思います。

この号は2019年度の活動をまとめたものです。2019年は、5月1日から新元号の「令和」が始まりました。元号が変わり、気持ちを新たにしているところですが、変革するのは時間のかかることも多々あります。私たちが今の看護部をしっかりと創り、その時代、時代で看護師が豊かに開花できる環境をつくり、未来につなげられる努力をしていきたいと思えます。

第50号という区切り目と新元号の始まりというところに、変化を恐れずにチャレンジすることを後押しされているような気持ちになりましたし、そうありたいと思えます。